会 報 第54号
令和5年2月10日
水 を 語 る 会
会長　眞柄　泰基

水を語る会

現在の会員数　一般会員141名　団体会員7団体　協力会員10名　（令和元年7月現在）

講演会の報告（第42回会員集会）

日時：令和4年11月12日(土)13時30分～15時50分
場所：日本水道会館7階会議室及びZOOM

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

講演1： 水とともに～前澤工業の歴史と未来
講師: 宮川多正 様 前澤工業(株)代表取締役社長

講演1では、会社設立からのバルブ製造と上下水道事業への参入、現在に至るまで上下水道の課題ニーズにこたえるため製品開発や技術導入を進めてきた経緯を紹介。また弁体離脱型バタフライ弁やキャパシタ式蓄電池内蔵バルブなどの業界に先駆けた水道用バルブ、Uチューブ型オゾン接触設備やMIEX処理システムなどの浄水処理システムも紹介。そして今後の不確実な時代の上下水道課題にも技術開発を通して取り組んでいくこと、若い世代の社員が未来に向かって夢を持ち、力強くのびのびと活躍できるよう、『みずのわ』と『ひとのわ』を今後も大切にしていきたいと締めくくりました。

講演2： 英国民営水道事業の概要と South Staffordshire Plc社のご紹介
講師: 中川哲志 様 水ing(株)代表取締役社長

講演2では、サッチャー政権が道筋をつけた英国水道の民営化・広域化について背景や経緯、現在は 15 社が水道事業を営んでいることを紹介。その 1 社である South Staffordshire Plc社（以下SS社）を子会社化したこと、SS社グループでは上水事業全スコープ（フルバリューチェン）による水道事業（規制事業）と、水道事業に用いられている資産を活用した水関連サービス事業を展開していることなども紹介。最後に、英国民営水道事業はあめとむちが機能し事業効率が向上するビジネスモデルであり、日本の上下水道事業も英国の広域化・民営化・民営化後制度設計の工夫による運営パフォーマンス向上策など学ぶべきことがあると結ばれました。

講演3：水・環境インフラが続くために～メタウォーターのサスティナビリティ～
講師:山口賢二 様 メタウォーター㈱代表取締役社長

講演3では、冒頭ご自身の経歴と日経新聞記事で取り上げられたことを紹介。部下の育成方法・ブログ発信・権限の間違いと勘違い、上下水道に対する提言など今伝えたい思いを語られました。また日本ガイシと富士電機の統合、上場の経緯、強みは半世紀にわたる人脈と信頼であることなどを紹介。そして全国で展開する PPP 事業では、荒尾市は民間として多くを学んだこと、宮城県官民連携運営事業はやりがいある事業であり SPC が独立性をもって運営している点を評価されました。さらに海外事業、SDGs への取り組みなど、長期成長と社会課題解決を目指し、外部へのアピール、従業員の質・量を確保していきたいとまとめられました。

最後に、眞柄会長が「3名のトップリーダーの方々には次世代を担う人材を育成していただき水道界をより活発にしてもらいたい」と挨拶されました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

定例幹事会の報告

日時：令和4年11月12日(土)　12時～13時
場所：日本水道会館及びWeb会議
議題：1. 今後の集会の開催スケジュール
　　2. 講演集の作成状況確認　3. その他

編集後記

Withコロナ3年、語り合うことの大切さを感じます。引き続き「水を語る会」の活動にご支援・ご協力をお願いします。(幹事　大澤)

◆新規入会をご希望の方は、事務局までご一報下さい。詳しくはホームページをご覧ください。
→ http://mizuwokatarukai.org /